

～乾杯は国境を越える 第25回青島国際ビール祭り～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
和木田 真功

メッセ通信をお読みの皆様、初めまして。私は8月末より中国山東省青島市に赴任いたしました下関市総合政策部国際課の和木田 真功(わきた まさのり)と申します。今後約2年間に亘り、本通信にて青島市の情報をお届けいたします。以後よろしくお願い致します。

さて、初回の寄稿のテーマは、青島の夏の風物詩「青島国際ビール祭り」です。今年で25回目を迎える本祭りは、滄山区世紀広場ビール城で行われました。地元紙の報道では、国内外の観光客は1千万人を超え、その経済効果は約250億と試算されています。開催中は1千トン近くのビールが消費され、会場は地元民のみならず、多くの外国人観光客でも賑わっていました。

さっそく入場料として20元を支払い、入場すると一面青島ビールのブースで埋め尽くされています。その奥には、ドイツ、デンマーク、アメリカ等々、ビール会社毎にブースをかまえています。このブースではステージが備え付けられており、常時マジックや、ライブなど、何かしらのショーが行われており、購入したビールやおつまみを、ショーを観覧しながら食べることができ、一人で参加した私でしたが賑やかで楽しい時間を過ごすことができました。

ところで、気になるビールの価格ですが、日本でお馴染みの中ジョッキは存在せず、1リットルサイズの大きなジョッキで販売されており、会場内で一番安い青島ビールでだいたい50元(約1,000円)、ドイツビールにもなると100元(約2,000円)という価格で提供されます。また5リットルや10リットルの樽も販売されており、複数人で参加した人などは購入し楽しんでいました。ビールの価格は普段スーパーなどで販売されている価格と比較すると5倍くらい割高に感じましたが、しかし前述のとおり、ステージのショーやイベントの充実ぶりを考えると、決して高すぎるとは思いません。また、皆楽しそうに大きなジョッキを片手にお酒を飲み交わしている姿を見ると、見ているこちらまで楽しくなってきます。

ビールには緊張緩和などの作用があると言われますが、多くの国の、様々な人種の人々がたった一つの「ビール」というツールで結びつき、ビールを通じて様々な国の味を堪能し、理解することができることから、国際交流や異文化理解の促進の作用もあるのだと学びました。やはりビールに国境はないと実感します。いつの日か、この祭りに日本のブースも加わり、青島の人をはじめ、様々な国の人々に飲んで頂ける日が来ることを強く願ってやみません。

結びに、夏の青島を表現する言葉をご紹介します。それは「喝啤酒，吃蛤蜊（ハーピジュー，チーガーラー）」です。日本語で「ビールを飲んで、アサリを食べる。」という意味です。青島はビールだけでなくアサリもとても有名です。とてもシンプルでかつ、青島の夏をよく表現している言葉だと思います。来年の夏は、青島ビールや世界のビールを飲んで、アサリを食べ、青島の夏を満喫してみてくださいはいかがでしょうか？



【青島ビールを味わう多くの人々】



【入り口に設置されたモニュメント】